

12月7日 | 巨大ヒツジと新年のあいさつ

大代地区のまちおこしグループ「王子田会」の皆さんが制作した、恒例の「ジャンボ干支」が完成しました。

20作目となる今回の作品は、愛嬌ある一対の「未」。ともに高さ約3m・全長約4mの大きさで、軽トラック3台分の稲ワラを使い、メンバー13人が10日ほどかけて仕上げました。午後5時から9時ごろまでライトアップされ、2月末まで展示される予定です。



12月12日 | 大井川に釣り人と賑わいを

大井川に架かる谷口橋の上流で、大井川非出資漁業協同組合によるアユ発眼卵の放流が行われました。

放流された卵は約300万粒。組合員の皆さんは、本流の深さ60cmほどに組んだ杭に、ふ化間近の卵を付着させたマット38枚を丁寧に結んで設置しました。稚アユとなり駿河湾に下った魚が、来春に遡上して大井川のアユ釣りシーズンを盛り上げてくれることが期待されます。

12月14日 | 住民主体で明るいまちづくり

地域活性化と住民の絆づくりを目的に、六合地区の有志が駅前公衆トイレの美化活動に取り組みました。

地域の顔である六合駅前をきれいにしようと「道悦島まちづくり委員会」が昨年に続いて実施しました。参加者15人はハケやローラーを手に、地元塗装店の会員の手ほどきを受けながら、内外壁を丁寧に白いペンキで塗装。額に汗しながら、新しい年に備えました。





12月16日 | 戦争の記憶を残すために

県立島田工業高校建築科の生徒が制作した「第二海軍技術廠^{しょう}牛尾実験所」の模型が、市役所本庁舎1階ロビーに展示されました。

制作したのは3年生の7人。当時の資料や図面と照らし合わせながら、約5カ月かけて完成させました。35分の1スケールで作られたジオラマには、アーチ型の屋根や電源室、パラボラアンテナなどが精巧に再現されています。

12月21日 | 地域で伝え合う日本の伝統

北中学校で、年末恒例の「門松づくり大会」が開かれ、全校生徒約130人が地元老人会とともに制作しました。

PTAや地元住民も材料調達で参加する同大会は、日本の伝統行事に関心を持ち、地域との交流を図ることが目的。老人会員の手ほどきで生徒たちが完成させた門松約60個は、市役所などに寄贈されました。また「しまだ元気市」で一般にも販売され、好評を博しました。



左：島田駅前、右上：金谷駅前、右下：六合駅前

12月12日 | 冬の駅前を彩るにぎわいの光

12月12日から、7万4000個以上のLED電球でにぎわいの創出を図る「島田市3駅イルミネーション事業」を開催しています。イベントは、広域連携による「志太3市イルミネーション事業」の一環。六合を含む市内3駅同時の開催は初の試みで、島田駅は昨年より大幅にバージョンアップしました。

冬のまちを彩るイルミネーションは、1月31日までの毎日、午後5時から10時まで点灯しています。